

2020年6月7日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

## 三位一体主日・聖霊降臨後第1主日 説教

### 「混沌の中に生きる私たちへ宣言される神の御言葉」

〔旧約聖書〕	創世記 1:1~2:3
〔使徒書〕	コリントの信徒への手紙Ⅱ 13:11~13
〔福音書〕	マタイによる福音書 28:16~20

主の平和が皆さんと共にありますように。

コロナウイルス感染予防のために約2ヶ月、10回の主日礼拝を一同に会して行う事を休止し、今日から礼拝が再開となりました。しかしながら、まだまだコロナが終息したわけではありませんので、礼拝も従来とは違う形をとることになります。窮屈であると思いますが、どうぞご理解頂き、今日は何よりもこうして再び皆さんと集まって、一緒に礼拝がお届け出来ることを喜び感謝したいと思います。

「想像力と優しさ」、私がいつも大事にしていることです。忘れないでください。

さて、本日の旧約聖書は創世記から天地創造、この世界の始まりについて読まれました。

「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面（おもて）を動いていた。」（創1:2）

「混沌」、英語でカオスといいます。辞書を引くと「混乱」とも出てきます。天地創造以前の状態は

「混沌」であったと聖書の一番最初に記されている事に注目したいと思います。

神は言われた「光あれ。」（創世記1:3）

神様は混沌の状態に「光あれ」と宣言されたのです。それから6日間で神様はこの世界をお造りになり、それは極めて良かった。（創1:31）と聖書に記されています。

今日は地球環境の日です。極めて良かったと宣言された神さまが造られた世界、そして私たちが生きるこの地球の環境を神様は人間に管理を任せて下さいました。しかし、私たち人間は歴史を通じて環境を破壊し続けてきています。創世記の天地創造において示された神様の壮大なご計画をいつも心に留めなければならないと思います。

私たちの世界、そして「わたし」の社会、人生、まさに現在のコロナウイルスに翻弄されている私たちは「混沌」「混乱」の中にあります。この先、どうなってしまうのだろうかという不安は現実のものになってきています。報道でも連日そのことがいわれていますが、現実はもっともっと深刻なのだと思

しています。そんなわたしたちに向かって神様は「光あれ」と宣言してくださっているのです。

天地創造の時だけではないのです。神様は初めから今もそしてこれからも永遠にこの混沌の中に存在し続けるお方なのです。これは人間の思いを遙かに超えています。ですから私たちには理解出来ません。

したがって、私たちは神様に不平をいうのです。「神様、どうして・・・」と。

福音書はマタイによる福音書に一番最後の箇所が選ばれています。十字架にかけられて復活され、天に昇られる場面です。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28:20)

この言葉を弟子たちに残してイエス様は弟子たちを祝福しながら天に昇られていきました。これ以降、肉眼でイエス様を見たものは誰一人いません。

創世記ではこの世界の始まりについて語られ、福音書ではこの世界の終わりのことが語られました。

「光あれ」「いつもあなたがたと共にいる。」

この2つの言葉は宣言です。それも必ず実現する宣言です。「光があればいいな」とか「いつもあなたがたと共にいたいと思います」ではないのです。それは人間の域です。

神様の宣言の前に私たち人間は、何も抵抗することが出来ません。しかし、抵抗できないと分かっているにもかかわらず私たちは悩むのです。もがくのです。疑問を持つのです。人間の理解をはるかに超える神様の御心を受け止めきれないのです。私はそれでいいと思うのです。大切なのはそんな私たちを見捨てずにいつも共にいると言われたイエス様を信頼して生きて行くことです。

私たち一人一人に与えられたたった一つの大切な「いのち」、そして「個性」、人によっては長く生きる事を赦される人もいればそうでない人もたくさんいます。一人一人違うし、境遇もそれぞれです。

そしてみんな「混沌」の中に生きているのだと思います。

そんなわたしたちに神様は「光あれ」、「あなたはそれで良い」と宣言され、イエス様は「私はいつもあなたと共にいる」と宣言されたのです。

渡辺和子さんが「聖書は大丈夫の福音のメッセージが溢れています」と言われました。

混沌、不安の中を生きていかなければならない私たちですが「大丈夫」の宣言に満ちあふれた聖書の御言葉から力を頂いて歩んで参りましょう。